

講義名	オフキャンパスプログラム / キャリア実習			授業形態	
担当教員	前川 明 / 後藤 奈々子 / 中山 一郎		開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3時限	
	単位数	2	履修開始年次	3年生	ナンバリング・コード CAR300

主題と概要

受講生は、企業（自治体）へ実習（仕事体験やオープンカンパニー）に行くことによって、職業観を醸成し、社会人として活躍するための準備を行う。具体的には、事前に自己分析、業界・企業・職種研究、マナー研修を行う。実習先の選定は自らが行い、計画的に実習への参加を進めていく。実習先では仕事とは何か、企業（自治体）実習に参加することで学ぶ。そして、実習後は報告書を作成し、将来の就職活動につなげていく。

到達目標

実習先の選定、企業（自治体）実習を通じて、実社会において必要なビジネス・スキルの基本を身につけることができるようになる。また、職業への理解を深め、職業選択能力を高めるとともに、将来のキャリアビジョンを明確にすることができるようになる。

提出課題

- ・実習計画書（3日間以上の実習参加予定計画書）
- ・企業（自治体）実習日記
- ・実習報告書

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の授業で提出するミニレポートについてはクリッカー（Respon）もしくはリアクションペーパーを使用し、次の授業の冒頭で、前回授業のミニレポートの内容（感想、質問）を紹介し、必要に応じて、解説、回答を行う。

評価の基準

事前講義ミニレポート 40%
提出課題の内容 60%
3日間以上の実習（うち2日以上は対面での参加必須）への参加が出来ない者、事前、事後講義の受講姿勢の良い者、事前、事後講義の出席が多い者は単位を認めない。また、事後講義（実習報告会）は必ず出席すること。

履修にあたっての注意・助言他

原則的に3年生を対象とした授業です。近年、企業（自治体）が実習を実施する目的や理由が「就業体験」から「採用直結」へと急速に移行してきており、4年生が履修したとしても現実的に「受け入れ先がある企業（自治体）が見つからない」というのが実情です（実際に実習に行くことができなければ単位修得はできません）。よって、履修登録にあたってはくれぐれも注意してください。

実習は、企業（自治体）との協働による学修である。そのために、企業（自治体）の立場に立って行動することが前提となる。日頃から対人関係やビジネスマナーを身につけるように心がけること。具体的には、授業の受講時には、企業での実習時と同じように、決められたルールを厳守すること（例）遅刻、私語、居眠り、途中退席等は厳禁。企業実習に行く前に、必ず事前講義、マナー研修を受けること。レポート・報告書等は、質の向上に努め、決められた期限内に提出し、必ず、実習報告会に出席すること。

また、実習先は自ら選定するため、夏休みに3日間以上実習に参加できるように、時間に余裕を持って計画的に進めること。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

その他

授業において随時、プリント資料を配布します。参考文献も随時、説明します。

授業計画

- 1 イントロダクション（中山、前川、後藤）
- 2 就職活動を見据えた実習について（中山、前川、後藤）
- 3 マナー研修（後藤）
- 4 企業（自治体）研究の考え方（中山）
- 5 自己PR、クワチカを考える（中山）
- 6 実習先の選び方（前川）
- 7 実習計画作成（前川）
- 8・9 マナー研修（後藤）
- 10-13 企業（自治体）での実習（中山、前川、後藤）
- 14・15 実習報告会（中山、前川、後藤）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1. 授業に関連する本や新聞記事や雑誌を読んだり、ニュースをチェックしたりする習慣を日常的に付け、特にキャリア・就職・労働・雇用・ビジネスなどといったキーワードには注目するようにしておく（毎日2時間）
2. 授業で学んだことの復習や実践（毎回2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

当該科目は、企業（自治体）実習に参加するための準備として、自分の強み・弱みを知ること（自己PR）。また、働くことの意味（価値観）、自分にとって良い会社の定義で志望動機を考えること、さらに、自己アピール力、プレゼンテーション力、会話力（グループディスカッションなど）を高め、夏休みには実際に実習に参加することを目的とした授業であり、社会に出る準備をする科目である。そのため、「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソンの育成」という本学のDPとまさに合致していると考えられる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

毎回の出席管理リアクションペーパーの回答はクリッカー（respon）を用いる。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
この科目を担当する3名の教員はキャリア教育の専門家として、本学学生だけでなく、他大学も含めた多くの大学生の就職支援、キャリア教育に従事し、その経験を生かして、大学での学びや大学生活（課外活動など）での経験が、どのように社会で役に立つのかを実例を交えて解説を行う。

備考
